

みなさん 初めまして岡山市に暮らしています山下逸子といたします。

私は薬害スモン患者です。

今回みなさんのお話をお聞きしたくて、薬害根絶フォーラムへ初めて参加しています。スモンという薬害を経験した者として思いを話させてください。

スモンとは1960年代から全国で多発した整腸剤キノホルムの副作用による、運動障害、知覚異常等、視覚障害などが起きる病です。発生当時は原因がわからず、ウイルス説が流され伝染する奇病と言われ患者は差別を受けていました。

私がスモンとなったのは今から50年程前で、17才まだ高校生でした。

当時のことを思い出すと辛くなりますが、そのころ私はお腹の調子が良くなって学校も休みがちでした。こんなことではいけないと当時住んでいた井原市にある井原市民病院へ行きお医者さんが処方してくれた整腸剤を、早く元気になり学校へ行きたいと、飲み忘れしないように真面目にきちんと飲んでいました。まさか病気を治すはずの薬が原因で、私の体も将来の夢も壊れてしまうなんて、そんなことが起きるなど夢にも思っていませんでした。

通院を続けていても良くならないので、入院して検査しましょうということになり1週間の予定で私は入院したのですが、数日後にはなんともなかった足にしびれを感じるようになりそれからまもなく足に力が入らなくなり歩けなくなりました。

た。それから一か月後にはとうとう視力も下がり始め、ある朝目覚めたら霞がかかったみたいぼやけ、はっきり見えなくなっていました。絶望のあまり、ベットの上で泣くことしかできませんでした。これから先どうやって生きてゆけばいいのか分からなくて、不安な気持ちでいっぱいでした。

結局2年という長い入院となり、50年たった今も視力は戻らず歩行も杖がないと歩けません。

後にわかったことですが私の場合キノホルム剤を一日2グラム、薬が原因と分かり使用停止になるまでの四か月間、飲み続けていました。薬の用法 容量を超えた大量投与だったのです。私が入院していた井原市民病院はスモン患者が多発した病院で、多くの患者が長期に渡りキノホルム剤を処方され、長期入院をよぎなくされ、歩けない、見えない体が動かなくなり寝たきりの人もおられました。

なぜこのようなことが おきたのでしょうか。お医者さんを信じなにも疑わず、健康になりたいと飲んだ薬で命も健康も将来の夢も穏やかな日々の生活も失うなんて。合点のいくことではありません。

外国では早くからキノホルムを使用停止にしたのですが、日本は多くのスモン患者が出るまで停止しませんでした。

薬害スモンのあとも薬害はつづいています。国は人の幸せより経済、企業の利益を優先するのでしょうか。やはり人のしあわせが一番のはずだと思います。

現在、と言ってもコロナのことで今は中止になっていますが、数年前よりスモン患者
数人で岡山大学医学部の学生さんの講義に参加して、スモンについて、薬害について
話させてもらっています。

もう少しで70才になる私は加齢も加わり、より歩きづらくなっていますが、
なんとか現状維持したいとリハビリに通っています。

一日も早い薬害根絶を願っています。